

第3期（2015年度）全12回

# ジャーナリズム公開講座

毎月\*最終木曜日 18:30~20:30

\*7月は16日（木）、12月は17日（木）

入場無料、申込み順先着90名 どなたでも参加いただけます。

会場\* B-nest（ビネスト、ペガサート7階）

静岡市葵区御幸町3-21 セノバ前、江川町交差点前

駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

\*11月は静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

健全なジャーナリズムこそ民主主義の基本です。



第3回／元木昌彦（元『週刊現代』編集長）6月25日

「危険な週刊誌編集者」1945年東京都生まれ。70年講談社入社、90年『FRIDAY』編集長、92-97年『週刊現代』編集長、99年「Web現代」創刊編集長。2007-08年市民参加型メディア「オーマイニュース日本版」編集長、社長。「編集者の学校」を各地で開催、上智大学、法政大学、明治学院大学などで「編集学」講師。著書に『「週刊現代」編集長戦記』など。



第4回／山田健太（専修大学教授）7月16日

1959年京都市生まれ。専門は言論法、ジャーナリズム論。早稲田大学大学院ジャーナリズムコース、法政大学法学部等でも講師を務める。日本ペンクラブ理事・言論表現委員会委員長、自由人権協会（JCLU）理事、世田谷区情報公開・個人情報保護審議会委員ほか。著書『3.11とメディア—新聞・テレビ・WEBは何をどう伝えたか』『言論の自由—拡大するメディアと縮むジャーナリズム』など。毎日新聞、琉球新報で連載中。



第5回／小島正美（『毎日新聞』編集委員）8月27日

「リスク報道を読み解く力」1951年愛知県犬山市生まれ。1974年愛知県立大学卒、毎日新聞社入社。長野支局、松本支局、東京本社生活家庭部、千葉支局次長を経て、現在は生活報道部編集委員。東京理科大学非常勤講師。『海と魚たちの警告』『こうしてニュースは造られる』『誤解だらけの放射能ニュース』『メディアを読み解く力』など著書多数。



第6回／朝野富三（元毎日新聞大阪本社編集局長）9月24日

「メディア・リテラシーの役割」早稲田大学第一文学部卒。毎日新聞大阪本社社会部長として日本商事・ソリブジン薬害問題を報道、日本ジャーナリスト会議JCJ賞本賞（1994年）、坂田記念ジャーナリズム賞（95年）を受賞。毎日新聞大阪本社編集局長を経て退職。現在は宝塚大学特任教授。著書に『「三畳小屋」の伝言—陸軍大将今村均の戦後』『ゴー・ストップ事件—昭和史ドキュメント』など。



第7回／楊井人文（日本報道検証機構代表理事、弁護士）10月29日

「報道品質を向上させる仕組み」1980年、大阪市生まれ。2002年、慶應義塾大学総合政策学部を卒業。産経新聞記者を経て、08年弁護士登録。2012年春、日本報道検証機構を立ち上げ、マスコミ誤報検証サイトGoHooを運営。報道品質の向上をミッションに掲げ、訂正報道。社会起業大学のソーシャルビジネスグランプリ審査員特別賞を受賞。

**第8回／石丸次郎 (ビデオジャーナリスト) 11月26日 (あざれあ)**

1962年、大阪出身。韓国延世大学語学堂などへの留学から帰国後、在日韓国・朝鮮人問題、韓国の学生運動などを取材。アジアプレス・インターナショナル大阪オフィス代表。北朝鮮取材は同国で3回、朝中国境地帯ではおよそ75回。北朝鮮の人々への取材は800人を超える。2002年より北朝鮮内部にジャーナリストを育成する活動を開始。07年に『北朝鮮内部からの通信・リムジンガン』を創刊、編集人。著書に『北のサラムたちI』など。

**第9回／坂本 衛 (放送批評懇談会理事) 12月17日**

1958年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科中退。在学中から週刊誌、月刊誌などで取材執筆活動を開始。放送批評懇談会理事。同会「放送批評」「GALAC」編集長、ギャラクシー賞報道活動部門委員長などを歴任。日本大学芸術学部放送学科非常勤講師。「オフレコ!」副編集長。「琵琶湖塾」副塾長。著書に『「地デジ化」の大問題』『官僚たちの熱き日々』など。

**第10回／花田紀凱 (『WILL』編集長) 2016年1月28日**

『雑誌ジャーナリズムとは何か』1942年東京生まれ。66年東京外大卒、文藝春秋入社。88年『週刊文春』編集長に就任、部数を総合週刊誌1位に伸ばす。94年『マルコポーロ』編集長に就任、部数を伸ばしたが、95年にホロコースト否定説の掲載が問題となり辞任、翌年退社。以後『uno!』『編集会議』などの編集長を歴任。2004年11月に創刊された『WILL』の編集長に就任。『産経新聞』に「週刊誌ウォッチング」を連載中。

**第11回／お楽しみ (調整中) 2月25日****第12回／野中章弘 (アジアプレス・インターナショナル代表) 3月31日**

1953年生まれ、兵庫県出身。関西学院大学経済学部卒業。1978年からフリーのフォトジャーナリスト。その後ビデオ・ドキュメンタリー作成に取り組む。インドシナ難民、アフガニスタン紛争、台湾人元日本兵、ビルマ少数民族問題、タイのエイズ問題、チベット、東ティモール、朝鮮半島問題、イラク戦争などを取材、テレビ番組として発表。早稲田大学政治経済学術院・ジャーナリズム大学院教授。

**第1回／常岡浩介 (『イスラム国とは何か』著者) 2015年4月24日**

『戦争報道と国家機密』1969年生まれ。早大卒。NBC長崎放送報道記者を経て98年からフリー。アフガニスタン、チェチェン、イラク、シリアなどの戦争を取材。武装組織の幹部や反体制派を直接取材した結果、各国の諜報機関や政府系組織に拉致・誘拐された経験がある。国内では北大生らの私戦予備陰謀事件に絡んで公安警察に自宅捜索され、被疑者宣告されている。著書に『イスラム国とは何か』『ロシア 語られない戦争—チェチェンゲリラ従軍記』、自身の経験を漫画化した作品に『常岡さん、人質になる。』。

**第2回／小川和久 (静岡県立大学特任教授) 5月29日**

『集団的自衛権を考える』1945年熊本県生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了。同志社大学神学部中退。日本海新聞、週刊現代記者を経て1984年、日本初の軍事アナリストとして独立。外交・安全保障・危機管理の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員などを歴任。2012年から現職で静岡県の危機管理体制の見直しに取り組んでいる。『日本人が知らない集団的自衛権』『中国の戦争力』など著書多数。

**静岡県立大学ジャーナリズム公開講座 受講申込書**

氏名	フリガナ		
	様		
住所	〒		
電話番号		職業	
E-mail		年齢	歳

お申込先はFAX:054-245-5603またはnishi@u-shizuoka-ken.ac.jp  
前日までにお申込みできない場合、当日に受付で申込書にご記入ください。